

第35回学術集会を終えて

KUWAHARA YUKI

桑原 祐樹

鳥取大学

第35回学術集会（米子大会）事務局長



この度は第35回学術集会（米子大会）を開催させていただき誠にありがとうございました。ご参加いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。学会の主催側を務めることは私にとって初めての経験でした。運營業務をお手伝いいただいたアクティブ・プロとの最初の打ち合わせで「事務局長って何をしたらいいのですか？」と質問したことを覚えています。

振り返ってみると、皆様に助けていただいていたばかりの事務局長でした。日本がん登録協議会の事務局や理事会の方々と連絡や調整においては、大会長の尾崎先生が中心に担ってくださいました。銀行口座の管理やお金の出し入れも大会長に行っていただきました。ここでは、学会開催にあたり私の印象に残った3つのピンチをお伝えしたいと思います。

ピンチ1：参加登録・参加費の銀行振り込み対応をしないため登録者数が伸びない！

当初、参加登録の手続きの際支払いはクレジットカード決済に限定しておりました。しかしながら、ふたを開けてみると銀行振り込みを希望される参加希望者の方が多数あり、軌道修正を迫られました。予算を切り詰めていたため業者にはお願いできず、身内のスタッフで手続き業務を行う必要がありました。ありがたいことに、鳥取県がん登録室の三浦さんと鳥取大学の金先生が手を挙げてくださり、お二人を中心にこの難局を乗り越えることが出来ました。多くの作業が必要であったと思いますが、お陰様で目標参加者数に到達することが出来ました。

ピンチ2：メイン会場のサイン（横断幕）がうまく印刷できない！

予算を切り詰めるため、終盤になって自前で出来ることは自前で行う必要性が出てきました。会場にいられた皆様はメイン会場のサイン（縦90cm×横700cm）をご覧になりましたか？あちらは大学の大型プリンターを使用して、開催3日前に自前で印刷しました。アクティブ・プロから画像データを頂き印刷に臨みましたがうまくいきません。あくせくしていたら、大学の臨床研究センター

のS先生が助けに来てくれました。冷房の効かない部屋で約2時間かかって作業を終えました。S先生に出会えなければ殺風景なメイン会場になってしまっていたかもしれません。

ピンチ3：懇親会2次会に人が集まらない！

1次会の、地元食材ケータリングによる立食形式の懇親会は大変好評を頂きました。さて、宴もたけなわに皆様に2次会（米子名物サバしゃぶのお店）にご案内したところ、なんと会場にいられた方は5～6人でした。お店には30～40人程度で席を用意するように伝えていたため、窮地に陥りました。気の毒に思われた参加者（理事）の方々が人を集めてくださり、最終的に20人程度の席になりました。お店には違約金を取られることなく2次会を終えることが出来ました。理事の皆様にはお気遣いを頂きまして本当にありがとうございました。原因としては、サバが苦手な方がおられることに気が回らず来たくても来られなかった方もおられたようです。こちらの不手際で大変申し訳ございませんでした。

以上が裏話・苦労話です。お気楽な事務局長でした。当日の運営も皆様のお気遣い、お力添えに助けられました。個人的には人の思いやりが何より印象に残った学会となりました。世界平和にも通じるものがあるのかもしれない。

鳥取県は不便ですが見どころが盛り沢山です。ぜひまたお越しいただき楽しんで頂ければ幸いです。

